



Title	先天性股関節脱臼の予防のための育児に関する研究 (2) 教科書, 育児書を中心に
Author(s)	後藤, ヨシ子
Citation	長崎大学教育学部教科教育学研究報告, 9, pp.93-98; 1986
Issue Date	1986-03-30
URL	http://hdl.handle.net/10069/30020
Right	

This document is downloaded at: 2019-02-19T17:18:20Z

先天性股関節脱臼の予防のための育児に関する研究（2）

——教科書，育児書を中心に——

後 藤 ヨ シ 子*

(昭和60年10月31日受理)

A Study on Infant Care for Prevention of Congenital Dislocation of the Hip (2)

—Textbooks and Publications on Infant Care—

Yoshiko GOTO

(Received, October 31, 1985)

はじめに

先天股脱（先天性股関節脱臼）の予防は，従来下肢を伸展位にさせる伝統的な育児習慣の改善をめぐって石田¹⁾によって提唱されて以来，生後第1日目からの全児に対する自然屈曲肢位・自動伸展運動育児をめざして母親を対象に啓蒙活動が各地で実施され²⁾³⁾⁴⁾，その成果は先天股脱発生率 $\frac{1}{10}$ という著しい減少となって今日現われてきている。先天股脱予防に対する母親の育児情報源は，直接病院や保健所のみではなく育児の参考書である母親向けの育児書も大事な役割を果たしていると考えられる。

そこで今回は母親の身近な子育ての1つの情報源でもある育児書について先天股脱予防に関する育児情報の記載状況（おむつ，おむつカバー，抱き方，背負い方，赤ちゃん体操など）を検討し，さらに高等学校教科書家庭一般についても言及してみた。

研究方法

書店にて気軽に購入出来る母親向けの参考書の中から出版年度60年（改定版含む）の新しい育児書10冊を選び先天股脱予防に関する内容の記載状況を検討した。なお高等学校にて採択されている教科書家庭一般6冊についても同じく記述内容の検討を行った。

成 績

A 育児書における記述内容

1. おむつ，おむつカバーについて

先天股脱予防とおむつとの関連については下股の運動をさまたげないようにと記されているものが10冊中5冊にみられたが従来使用の三角おむつ等の説明や図示がなされており，

*長崎大学教育学部家庭科教室

股脱予防用という表記は新生児用のみにふれられていた。そして10冊中5冊は先天股脱予防に対しての適切な記載がなされており、そのうち3冊は乳児の月令を問わずに股おむつについての使用が明記されているが他の2冊は3カ月以上すぎるともれやすくなるため従来の三角おむつにかえてもよいとのべ図示もされていた。

おむつカバーについては股脱予防用のおむつカバー使用についての適切な記載は10冊中4冊にすぎず乳児の月令を問わずそれのみをのべているのは3冊であり、そのうち1冊はオープン型やパンツ式のカバーについても同時にのべ、図示されていた。そして10冊中6冊は股脱予防については新生児用のものだけにふれており、下股の動きを妨げないようにするとのべてはいるがオープン型やパンツ型のカバーを図示している。

このように先天股脱予防に対する記載は10冊中3冊においてのみ適切な股脱予防用のおむつ、おむつカバーについて乳児の月令を問わずに望ましい説明がなされていた。しかし10冊中7冊は股おむつ以外の三角おむつ、オープン型、パンツ式のカバーを下記の一例のように文章や図示で説明されており、先天股脱予防に対する記述上の不充分さ不適切さがみられた⁵⁾(図1)。

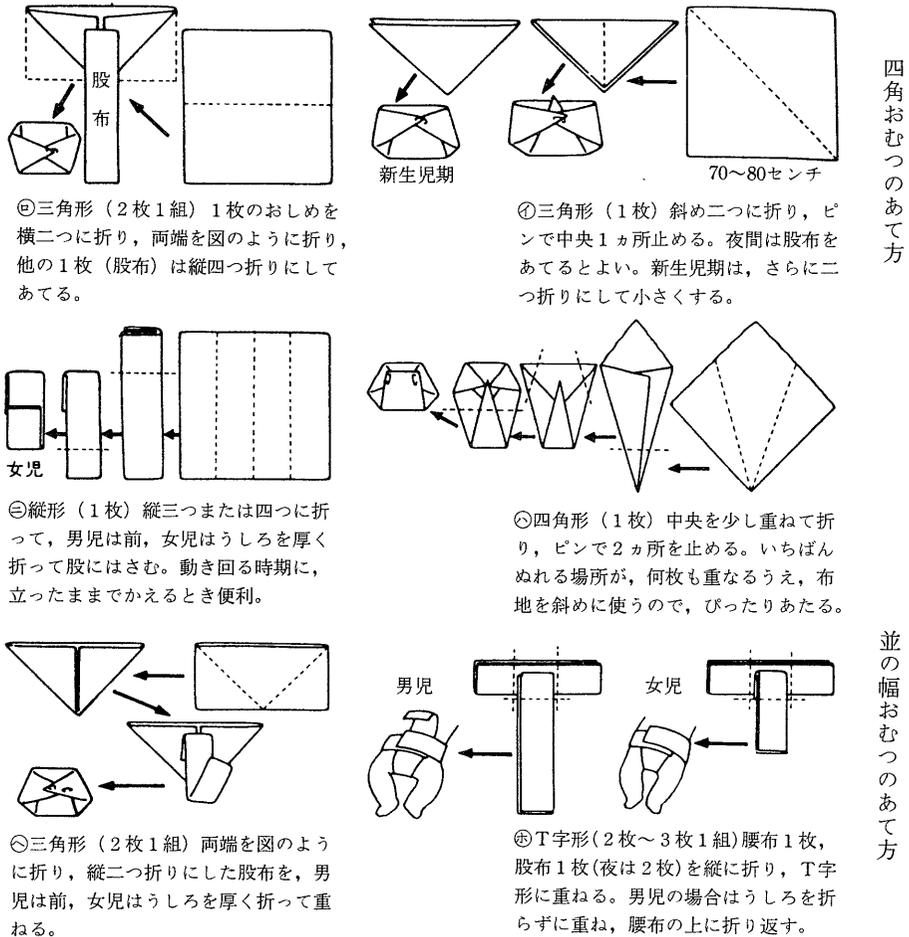


図1 おむつのあて方(股おむつ、三角おむつ、のしおむつ、T字形が記されている育児書(1985))

2.抱き方、おんぶの仕方について

股脱予防用のおむつ、おむつカバーの記載に比べ、抱き方においては、股脱予防に対する注意事項は育児書10冊とも殆んど明記されていず、逆に下肢を伸ばし伸展位にする望ましくない抱き方の図がそう入されているものが多かった。

おんぶの仕方については10冊中2冊は明確に先天股脱についてのべ、しかもおんぶは両あしを開いておんぶすることで股関節脱臼の予防にもなると積極的に記されていた。しかし他の8冊には股脱予防についての注意は記されていないが、おんぶ紐の使用の折両あしをひろげた適した背負い方の図が多く示されていた。

3.赤ちゃん体操、おむつのとりかえ時の下肢について

赤ちゃん体操は毎日あやしたり、遊んだりしていることが赤ちゃん体操でもあり、ことさらに改めてやらなくてもよいという考えから、10冊中2冊は積極的な記載はなされていなかった。そして股脱予防に対する注意を記してやり方を示しているものが1冊みられたが、10冊中7冊は股脱予防については全然触れていず、一般的な赤ちゃん体操についての記述がされていた。

おむつ取り扱い時の下肢の扱い方についての記述は少なく、両足首をもちあげるという不適切な記述が10冊中1冊、他に図示で記しているのがさらに1冊みられた。おむつ取りかえ時の下肢の扱い方による認識は意外に無関心であるように思われた。

4.先天股脱の成因について

先天股脱は後天的な因子によっても発生しうる病気であることに対する記述は、10冊中わずか1冊のみであった。他の9冊は先天性因子による発症を前提において先天股脱についての病気の内容を記述されていた。

これらの育児書における先天股脱予防に対する記述には新しい年度の出版物においても記述は不十分であり、前報⁹⁾での実態にみられるように母親への啓蒙活動における成果にくらべ意外に不徹底であるといえよう。

B 高等学校教科書家庭一般における記述内容

1.おむつ、おむつカバーについて

高等学校教科書家庭一般の保育領域において、おむつ、おむつカバーについての記述は6冊中4冊にみられるが、おむつは肌ざわりが柔らかく吸水性に富むものがよいという素材についての記述がなされており先天股脱予防に対する股おむつの記述はみられなかった。おむつカバーについても水分がもれずさらに肌がむれないように通気性のあるものがよいと記述されているのみであった。しかし1冊の教科書において従来使用の三角おむつのあて方の例が図示されており、おむつカバーにおいても2冊にオープン型のおむつカバーの図が記載されていた(図2)。また6冊中1冊はおむつ、おむつカバーの用意する枚数のみを記し、残りの1冊は何の記載もみられなかった。

さらに乳幼児の衣服の記述内容において下肢を伸展位にさせる衣服のデザインが図示されているが、今後股脱予防に対し殊に乳児の自然な肢位を防げない衣服の検討、記述も望まれよう。また従来の三角おむつ、オープン型の図示がなされている面は早急に改訂される必要があるであろう。

表1 育児書・高等学校教科書の内容

種 別	出版 年度 (昭和)	内 容												抱 き 方	お ん ぶ の 仕 方	赤 ち ゃ ん 体 操	お む つ と り か え 時	先 天 股 脱 の 成 因									
		お む つ						おむつカバー																			
		文			図			文			図																
		予 防	□	▽	▽	▽	他	□	▽	▽	▽	○	他						予 防	股 脱 用	オ ー プ ン ツ	巻	予 防	股 脱 用	オ ー プ ン ツ	巻	
育 児 書	A	60.9	2	/	/	/	/	/	/	/	/	/	3	/	/	/	/	/	/	/	/	3	1	2	/	/	
	B	60.5 (13版)	1	○	/	/	/	/	/	/	/	/	1	○	/	/	/	/	/	/	/	/	3	3	/	/	/
	C	60.8	2	○	/	/	/	/	/	/	○	○	/	2	○	○	/	/	/	○	/	/	3	3	2	1	1
	D	60.8 (5版)	1	○	/	/	/	/	/	/	/	/	/	1	○	/	/	/	/	/	/	/	3	1	1	/	3
	E	60.5	2	/	○	○	/	/	/	/	/	○	○	/	3	/	/	/	/	/	/	/	3	1	2	/	3
	F	60.2 (7版)	2	/	○	/	/	/	/	/	○	○	○	○	3	/	○	/	/	/	○	/	3	3	2	1	3
	G	60.7 (6版)	1	○	/	/	/	/	/	/	/	/	/	1	○	/	/	/	/	/	/	/	3	3	/	/	3
	H	60.11 (13版)	1	○	/	○	/	/	/	/	○	/	○	/	1	○	○	/	/	/	○	/	3	2	2	/	3
	I	60.8 (15版)	2	/	○	/	/	/	/	/	○	○	○	/	3	/	○	/	/	/	○	/	3	3	2	/	3
	J	60.5 (8版)	1	○	/	/	/	/	/	/	○	○	/	3	/	○	/	/	/	/	/	/	3	3	2	/	3
高 校 家 庭 一 般	1	59.1	3	/	/	/	/	/	/	/	○	○	/	/	/	/	/	/	○	/	/	/	/	/	/	/	/
	2	59.1	3	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	○	/	/	/	/	/	/	/	/
	3	59.2	3	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	4	59.4	3	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	5	59.1	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	6	59.2	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/

予 防

- 1 先天股脱予防と明記
- 2 股関節を伸展させないまたは運動を妨げないと記してある
- 3 先天股脱予防について記していない

内 容

- 股おむつ
- ▽ 三角おむつ
- ▽ "
- ▽ T字形おむつ
- のし型おむつ
- × いけないと否定している
- / 該当事項について書いていない

抱き方おんぶの仕方

- 1 先天股脱予防明記
- 2 運動を妨げない股関節を伸展させない
- 3 先天股脱予防についての注意点を全くのべてない

赤ちゃん体操

- 1 股脱予防についての注意を記している
- 2 股脱予防についての注意はない

おむつとりかえ時

- 1 両足首を握ってもちあげる
 - 2 おしりからもちあげる
- 先天股脱の成因
- 1 後天性と防止について書いている
 - 2 先天性とのべている
 - 3 成因について書いてない

乳児の育児の世話において、抱き方、おんぶの仕方については6冊すべてに記述はなく、先天股脱という病名も本文中見あたらなかった。高校生履修用の教科書であるため未だ年令は若く、育児の実践には時間があるともいえるが、10代の既婚者も決して少なくはない。最小限適切且つ簡潔なる表現にて記述し、近い将来への育児にそなえる必要な知識として高等学校教育においても情報を提供することは早すぎることはないように思える(表1)。

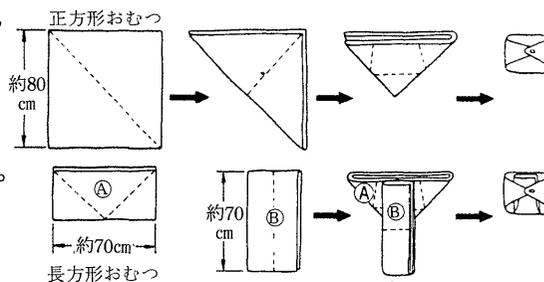


図2 おむつのあて方の例
(昭和59年高等学校教科書家庭一般)

考 察

先天股脱予防に対する母親への啓蒙活動は約10年前から開始され新生児、乳児の自然な屈曲肢位、自動伸展運動を保持することにより、生後環境因子による発生の予防を大きく減少させることが判明してきた。従来誤った下肢の伸展させる育児法の改善はおむつをはじめおむつカバー、抱き方、おんぶの仕方、衣服など育児法、育児用品など全般にわたるものでありしかも乳児が二足動物になるまで注意が大切であるといわれている。母親の先天股脱予防に対する認識は、殊に股おむつ使用の普及率はずいぶん高く、他の育児面においてもかなりの認識が侵透してきつつあるように思われる。母親の先天股脱予防に対する情報源は直接病院、保健所によることが多いが、育児情報として身近な参考書である育児書の役割も見逃せない。

今回は母親が育児情報源として何程かの参考とされるだろう母親向けの育児書を中心に先天股脱予防に対する記載状況について検討を行い、さらに高等学校教科書家庭一般についての記述内容についても言及した。

育児書にみるおむつ、おむつカバー、さらに抱き方、おんぶの仕方において先天股脱予防を明確に意識し記述されているものは意外に少なく、最近の出版年のものにおいても記述の不十分さがみられた。赤ちゃん体操においては、あしを他動的に動かすことは絶対に行わないようにと先天股脱予防の立場から強調される人もいる。育児書においても乳児は裸にすると喜び手足を活発に動かし、自分で自由に体操をしている。赤ちゃん体操はことさら必要としないとのべているものも2冊みられた。また股関節脱臼に対しての注意を記し、やり方を示しているものもみられたが、多くは一般的な赤ちゃん体操についての記述に終わっていた。本来赤ちゃん体操が乳児にとって不可決なものであるか否か今後検討されるべき内容であろう。

また先天股脱の成因について特に後天的にも発生しうる病気であることの記述は10冊中1冊のみにみられており、母親向けの育児書のもつ情報として、今後さらに先天股脱予防に対する明確な記述が望まれ、母親への良き参考書として切望されるものである。

さらに高等学校教科書家庭一般における保育領域では、おむつ、おむつカバーについての記述は6冊中4冊にみられ、その内容は素材についての記述であり形態の記述ではなく、先天股脱予防とおむつ、おむつカバーの関連を生徒に認識させるには不十分であり、乳児の下肢を伸展位にさせる衣服のデザインの図示とともに従来使用の三角おむつのあて方の

記述については早急に改訂が望まれると思われた。

結 論

先天股脱予防は生直後からの正しい乳児の下肢の取り扱い方にあるとし、約10年程前から伝統的な育児法の改善をめざし、殊に母親を対象に啓蒙活動がなされてきた。母親の育児に対する情報源として先天股脱に対する認識は、病院や保健所にて得ることが多いと推察されるが、身近かに存在する母親向けの育児書も大事な情報源の1つであると考えられ、今回は、最新の育児書10冊を中心に先天股脱予防に対する育児内容の記述について検討を加えた。また高等学校教科書家庭一般6冊についても言及してみた。

その結果、1)おむつ、おむつカバーについて先天股脱予防との関連を明確に記しているものは10冊中3冊であり、他は新生児用のみに記述し、三角おむつ等のべ、おむつカバーについてもオープン型、パンツ型を図示していた。2)抱き方、おんぶの仕方については先天股脱予防に対し抱き方における留意点は殆んどなく、おんぶについては股脱を意識し記述されたものは2冊あり、他は図において両足をひらいた姿勢のものが記されていた。3)赤ちゃん体操については特に必要と考えない立場から記述のない育児書も2冊みられた。股脱を予防するため注意を記し、やり方の方法を記されたものは1冊であり、他は一般的な赤ちゃん体操に対する記述であった。おむつ取りかえ時の適した下肢のとり扱いについての記述はなく、足首を握ってもちあげるが文章又は図にて2冊示されており、他はすべて記述されていなかった。4)先天股脱の成因についての記述も特に後天的にも発生しうることの記述は少なく、育児書の中にもみる先天股脱予防への認識は意外に薄いことが感じられた。5)高等学校教科書家庭一般の保育領域において、おむつ、おむつカバーについての記載が6冊中4冊にみられたが、素材についての説明のみであり、中には従来使用の三角おむつのあて方、オープン型のおむつカバーが図示されていた。先天股脱予防に対する望ましい育児法や育児用品について生徒に正しい知識を提供することは必要であり今後再検討されることが望まれよう。

文 献

- 1)石田勝正：先天股脱成立に関する考察—特にその予防的処置について。整形外科，24(4)，1973。
- 2)山田順亮：常滑における先天股脱予防活動。保健の科学，24(6)，1982。
- 3)石田勝正：先天性股関節脱臼の予防。小児保健研究，35(6)，1977。
- 4)飯田恭子：先天性股関節脱臼の予防活動。小児保健研究，35(2)，1976。
- 5)鈴木郁子：専門教育における乳児保育技術指導の再検討の必要性について。保健の科学，24(6)，1982。
- 6)後藤ヨシ子他：先天性股関節脱臼の予防のための育児に関する研究(1) 長大教育教科教育研報，9，1986。(掲載予定)